

【8月3日のワークショップ(学内探索)の参加学生からの感想】

① 備蓄について(非常食体験、学内探索)

- ・足りない！という客観的な印象。種類が少ない。
- ・こんな所に！？という場所にあった。危ない。
- ・非常食は非常食で美味いとは言わずらいけど災害時生き抜くには大切
- ・飯はどれも味が良かった
- ・美味しいものもあれば美味しくないものもあった。被災して不安な中でご飯は気持ちを切り替えるものになると思う。
- ・非常食として完成したものはきちんとおいしいことを改めて知れた。学校の備蓄庫、どうにかならんかね。。
- ・偏食としては、シンプルなものがあるところって嬉しい。調理と片付けも 30 分以内に済むのが◎。
- ・学内に、災害によってどこが安全かがいっきにかわりそう

② 1日の中で印象に残ったこと

- ・マニュアル、リストなど見えない、わからない
- ・大学生が動くには、動かせるには
- ・学内の備品が思ったよりは少なかった
- ・非常食を体験できてよかった
- ・つかれた
- ・料理の手間がかからなかったこと
- ・味
- ・ガトーショコラが一番おいしかった。
- ・備蓄庫のカビに驚いた。
- ・災害がおこった時にいかに簡単にすばやく対応できるのかが大切になってくると思った。だからこそ、学内の備品の分散や、AED などの非周知が大きな影響を及ぼしそうで怖い。

4日の感想

① 防災の計画について

- ・日常の積み重ねが大切
- ・知る、調べる(方法)
- ・学校の周りの避難所を近いところと遠いけどいけなくない所を知れてよかった
- ・一番逃げ道の近い所にどこに避難すればいいのかが知れた
- ・避難できる場所を複数覚えることが災害時に必ず役に立つと思った。
- ・支援者、外国人にわかりやすく、利用しやすい支援ボードや地震対策のための用紙があることを知れてよかった

- ・近くにある避難場所を常にかくにんしておく必要がある。
- ・二次避難所など自分たちの知識を使える場所があることを改めて認識できた
- ・区としてはたくさんあるが、本当に自分が使えるところはどこだろう…と考えることができた。
- ・淑徳大学の近くに避難場所がどれだけあるのかを知らなかったのが、知れてよかった。また、その避難所が大学からどれくらいで行けるのか、どれくらいの人が入れるのか知れてよかった。
- ・一時的な避難であれば、小学校に多分、どこからでも 20 分程度以内で行けると思う。しかし、本当に泊まることになったとき、インフラもマヒして心身ともに疲弊した状態で移動はあまりしたくない

② ファーストミッションボックスの感想

- ・行動力は大切だが、リーダーの立ち位置が明確に役立てられるか不安
- ・「こどもだけ」でも運営できる
- ・小学校高学年でもできるなら自分たち以上もできるし災害時スムーズに進むと思った
- ・このようなものがあったらスムーズにことが運べる
- ・実際に目の前で地震のあとの動きを見ることができたことは、現場での動きにつながると思った
- ・自主性(主体性)が必要
- ・言葉が難しい
- ・声に出して言う→まちがえが少ない？
- ・本部(受付)のみに市内で分けていた
- ・小学生の子たちでもできることに感動。我々も頑張らなくては…。
- ・子どもたちが率先して行動し、ボックスに係れていることを理解していることに驚いた。ここで見た子どもたちのように実際に災害が起きた時には大人たちが率先してやっつけていかなければいけないなと思った。
- ・子どもたちのもつ力を改めて知った(思い出した)。あれを自分ができるのだろうか。
- ・災害に備えた平時の準備・訓練がすごく大切。

【8月4日のワークショップ(ファーストミッションボックスの実演見学)参加学生からの感想】

- 消防士を目指しているのと卒論の関係で参加させていただいたのですがとても良い経験になり役立つ勉強をさせていただいてありがとうございました。また、それだけでなく子供の教育方法や考え方も勉強できました。子供達も沢山のパワーをありがとうございました。
- また、機会があったら訪れるのでその時はよろしく願いいたします。

- 本日はファーストミッションボックスのデモンストレーションに参加させてくださり、ありがとうございました！どの子ども自主的に動いていて素晴らしかったです。小学生のみんなだけでできるのかな。。。と思っていたのですが、想像以上にできていてみんなすごい子なんだなと思いました。小学生のみんなができることを、大学生の我々も当たり前になくてはいけないな、と考えることができました。暑さに負けずがんばってください。
- 今回、ファーストミッションボックスのデモンストレーション見学させていただきましたが、子どもたちが大人の力を借りずに自分たちだけでやっていることにとても驚きました。そして、子どもたちだけなので少しもめてしまったりするのかなと思っていたのですが、一人一人が率先して行動している姿にとても感動しました。とても貴重な体験ができました。ありがとうございました。
- 皆さんカッコよかったです。ハキハキしゃべって指示を出したり、テキパキ、次にやるべきことにむけて動いていた姿が印象的でした。地震が起きたあとにすべきことが何なのか、受付を作ったり、支援しやすくしたり、ボランティアをしやすくしたり、全く知らなかったことを実際に目の前で見ること、ただ話を聞くことよりも記憶に残りました。教えてくれてありがとうございます。
- 「子供たちが何をできるのか」を思い出す体験でした。自分も、何年前にあの子たちと同じように、同じくらいとまではいかずとも、考えて行動ができていたのだと思います。しかし、今、昔の自分を振り返っても、つつい自分のできないことばかりが目について、他の子どもたちもそうだろうときめつけて、過保護になりがちです。会長の「子ども達を信頼して」という言葉を聞いて、私もそのような考えをもった大人にならなくては、と感じました。書ききれぬ程、多くのことを考えさせていただきました。ありがとうございました。
- 指示書の言葉が難しかったのにも関わらず、発言しながら理解しようとしてすごかった！自分の大学でもFMBをつくる時の参考になりそうで改善点等を考えていく必要があると考えた。元気だけど、やる時はちゃんとやる子どもたち、良い話や意見を聞いて、有意義な時間でした！ありがとうございました。

FMBというものが、使われているということは知っていたが、実際に使ってる場面を見たのは今日がはじめてで、更に、子供だけの運用をするというのは、子供の成熟度の

面や、理解力などから心配をしていましたが、自ら手を上げ行動する姿や、考えている姿に感動しました。また、はじめにお話しして頂いた、大里さんの取り組みや志、理念にとっても他にはない強い想いがあるのだと伝わってきました。経営は、利益や顧客などの利害関係者にばかりフォーカスしてしまい、地元・地域を置いて行ってしまうことが多いです。人は人に生かされ、育てられ、頼り頼られて生きていくもの。会社も人と同じなんだと痛感しました。自分がどう子王道できるのか、そして、次の世代に伝えていけるのか、改めて考えていきたいと思います。本日は、ありがとうございました